

収穫期にウンシュミカンを加害するアザミウマ類

和歌山県果樹試験場 環境部 研究員 勘代 博文

1. はじめに

近年、収穫期の極早生や早生温州でアザミウマ類の被害が増加し問題となっています。そこで、効果的な防除対策を確立するため、収穫期に果実を加害するアザミウマ類の種類とその発生活長を調査するとともに、発生源となる雑草種や有効な薬剤を探索しました。

2. 調査方法

1) アザミウマ類の発生活長調査

2017年～2018年にかけて、有田市千田、有田川町下津野に黄色粘着トラップを地上から150cmに設置し、5日後ごとに持ち帰り種類別に計数しました。

2) 果実への寄生調査

主要な加害種を明らかにするため、9月以降の果実に寄生しているアザミウマ類を捕獲し、種類別に計数しました。

3) 寄生植物調査

ほ場周辺の雑草を白いバットにはたき落して、捕獲したアザミウマ類を種類別に計数しました。

4) 有効な薬剤の探索

カンキツの果皮を1辺約4cm四方に切り取り、各種薬剤に約10秒程度浸漬し風乾後、有田川町下津野で採集したハナアザミウマを果皮に接種し、48時間後の効果を調査しました。

3. 結果

1) 発生活長調査の結果、有田市と有田川町では9月下旬からハナアザミウマの誘殺が他種に比べ増加し、10月以降では誘殺されるアザミウマ類のうち本種の占める割合が大きくなりました(図1、2、3、4)。

2) 果実に寄生するアザミウマ類の数を種類別に調べた結果、ほとんどがハナアザミウマでした(図5)。

3) カンキツほ場内、ほ場周辺の植物での寄生調査を行った結果、ほ場内の植物に寄生は見られませんでした。ほ場周辺に自生していたセイタカアワダチソウに、10月以降ハナアザミウマの寄生が多くみられました(図6)。

4) 室内の薬剤検定では、スピノシン系のスピネトラム水和剤やスピノサド水和剤で高い効果が認められました(図7)。

以上のことから現地ほ場で収穫期に誘殺されるアザミウマ類の大半がハナアザミウ

マで、果実での寄生も確認されたため、主な加害種であると考えられました。また、周辺のセイタカアワダチソウが本種の主要な発生源であると考えられ、スピネトラム水和剤およびスピノサド水和剤が防除薬剤として有望であると考えられました。

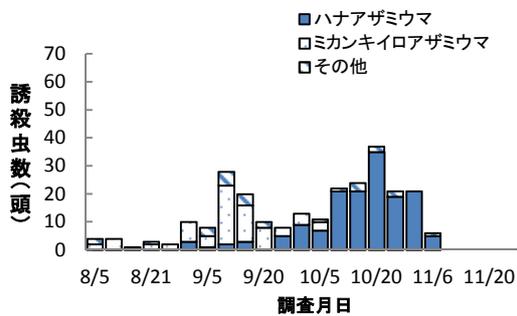


図1. 秋期の有田市千田でのアザミウマ類の誘殺割合 (2017)

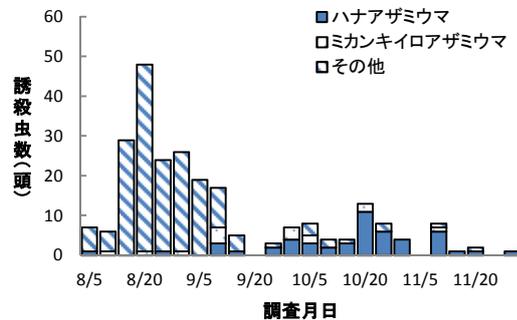


図2. 秋期の有田市千田でのアザミウマ類の誘殺割合 (2018)

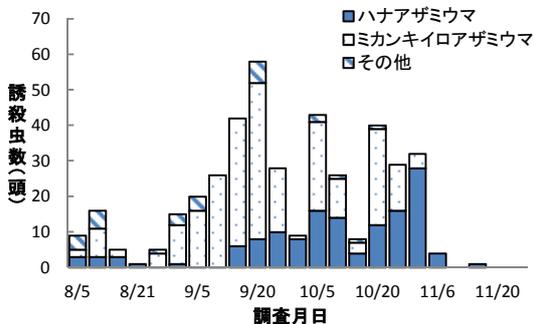


図3. 秋期の有田川町下津野でのアザミウマ類の誘殺割合 (2017)

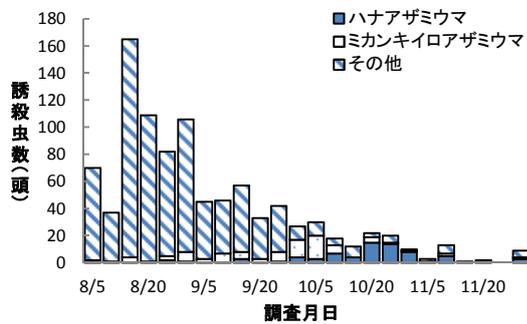


図4. 秋期の有田川町下津野でのアザミウマ類の誘殺割合 (2018)

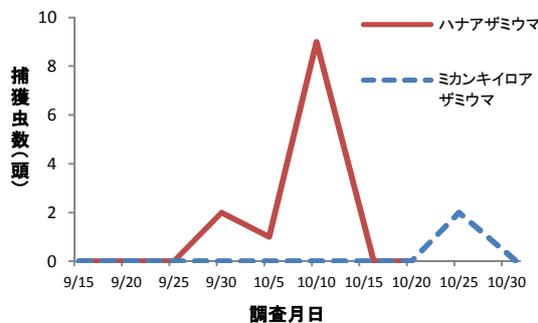


図5. 有田市千田でのアザミウマ類の果実への寄生 (2017)

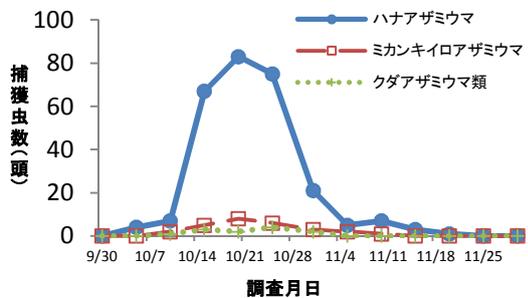


図6. 有田川町下津野でのセイタカアワダチソウに寄生していたアザミウマ類の推移 (2018)

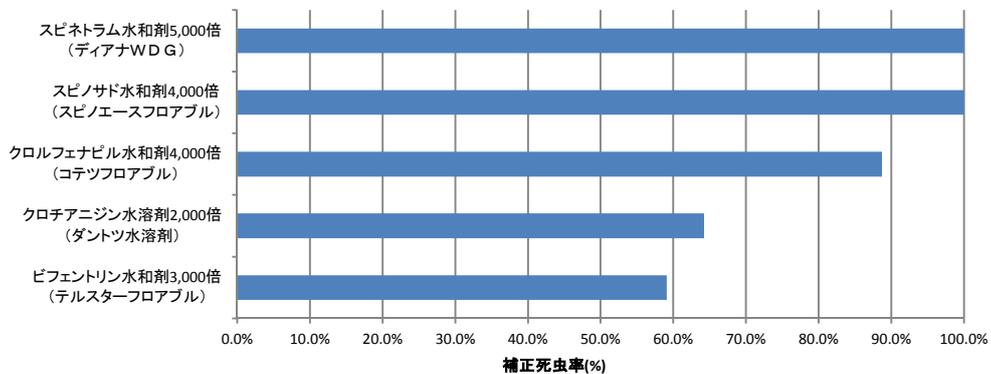


図7. ハナアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果(2018)